

雑木林通信 2021. 3. 2 159号

今年度、最後の雑木林作業

早いもので、真夏の作業の様子をお伝えしてから半年がたちました。雑木林の整備作業は子どもたちの安全や活動範囲を広げるために行っています。今年度、最後の作業(2021.3.1)は、大雨などで崩れた箇所がある西側散策路の改修作業でした。

下の2枚の写真は、作業がほぼ終わったところ。これを見ると今回どんな改修作業を行ったか、お分かりになるのではないのでしょうか。



左の写真は《土のう(白い袋に土を入れたもの)》をならべて、道幅を倍にし終えたところです。しかし、土のうを並べるだけでは崩れてしまうため、右の写真のように土止め専用の金属板をしっかり立て、土のうを隙間なく並べていったのです。急な所には手すりをつけ、歩くきやすく階段もつけました。

土のうを積んだあと、田中さんがしつかりとした階段にするため足で踏みかため、むこうでは赤塚さんが土のうの隙間が出ないように位置を調整していました。

結果をみれば、なるほどと思われることと思いますが、ここに至るまでにどんなことが必

要だったか、想像できるでしょうか。

それをお伝えすることにします。

① 土のうを運ぶ



土の入った土のうが何袋必要かは現場に行って並べて見なければわかりません。土の入った袋は重く数多くを運ぶことは困難です。そこで細谷さんが車を出してくださいました。また用務員さんの吉田さん、山本さんは側溝の土砂をいれた土のうを事前に準備してくれました。

② 土のうを下ろし、並べていく

改修場所は雑木林に隣接する会社の敷地から落とさなければ入りません。承諾を得て敷地に車を止め一袋ずつ、フェンス越しに落としていきました。フェンスの内側で待っていた赤塚さんが、とりあえずの位置に並べていきます。



③ 足りない土のうをつくり、ならべ、ととのえ、ふみかためて…



事故のないように気をつけながらの共同作業です。

子どもたちの雑木林は、こうした地道な作業で守られています。